

ハンディキャップ委員会活動へのご協力のお礼とお願い

2017年9月 吉日

障がいを持つ方々のスキーをはじめとするウィンタースポーツを支援してゆく目的のために発足したハンディキャップ（以下HC）委員会は18年目を迎えます。昨年度は数多くのボランティアの方々をはじめ、関係組織の方々のご協力をいただき、① HCセミナーⅠ（横浜）、Ⅱ（五竜）② 障がいをもつ人のためのスキー教室（五竜・1月）③（車山3月）（②③の2行事はスポーツ振興くじ（toto）助成事業）④ 鹿沢チャレンジカップスキー大会（4月）の4つの行事開催をすることが出来ました。支援活動をより良くするために開催した10月のHCセミナーⅠでは、参加者18名が「基本的な障がいの理解、聴覚・視覚障がいについてのサポート法」（プレジャーサポート協会馬場賢親氏）の座学と疑似体験を通して必要なサポートの仕方と用具の理解を学び、1月のHCセミナーⅡでは参加者16名が実際に雪上でサポート用ベルト&ロープとアイマスク、無線機とウエストスピーカー着用、二本のサポート棒を使っての視覚障がいの方のサポート・指導法、筆談器を使っての聴覚障がい者への指導法を学びました。

1月の五竜スキー教室では総勢46名（参加者21名、ボランティア講師他25名）、3月の車山スキー教室では総勢100名（参加者等51名、ボランティア講師他49名）の参加があり、両行事ともセミナー参加者も加わって無事終わることが出来ました。4月のチャレンジカップには2日間（GS、SL）延べ27人の参加があり無事終了することが出来ました。皆さまのご協力にあらためて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

HC委員会では、これまでの実践で得られた貴重な経験を踏まえ、HC委員会の活動を支えていただくボランティアの方々が、障がいについて理解を深めよりよい支援活動ができる様にHCセミナーⅠ（座学、9月横浜）：知的障がい&肢体障がいの基礎知識とサポート装備の取り扱い、HCセミナーⅡ（雪上実践、1月五竜スキー教室の前日）：知的障がい&肢体障がいを持つかたの雪上でのサポート指導実践、を開催いたします。また3月の車山スキー教室では、参加者の方々が参加しやすいように往復バスを利用し、ボランティア登録をいただいている皆様のご協力のもと宿泊地、バスでの生活サポートも含めた取り組みを行ってゆきます。4月のチャレンジカップスキー大会のサポートも力を注いでゆきたいと考えております。これらの事業を実施するにあたっては、参加者の実費負担を原則とはいたしますが、セミナーや行事運営、委員会諸活動、ボランティアへの謝礼その他に多くの資金が必要となってまいります。今年度（29年度）もスポーツ振興くじ（toto）助成金の交付申請が認められましたので、前年度と同様充実した内容で運営が出来るものと考えております。

今年度もHCセミナーへのご参加、ボランティア登録及びスキー教室のボランティア参加もあわせてよろしくお願い申し上げます。なお指導員、準指導員の方々は、研修会・クリニックと併設で行われるHC行事へのボランティアとしてのご協力は研修会、クリニック参加として認められますので、多くの方のご参加をお願いいたします。

（公財）神奈川県スキー連盟
ハンディキャップ委員会